

# 第5回函館市町会活性化検討会議 議事録

○開催日時：令和2年10月26日（月） 10：00～12：15

○開催場所：函館市消防本部5階 防災多目的ホール

○出席者

委員：大矢委員， 纒坂委員， 形部委員， 神田委員， 菊池委員， 笹谷委員  
竹内委員， 常野委員， 永澤委員， 西谷委員， 浜田委員， 平形委員

オブザーバー：函館市町会連合会 中村事務局長

函館市保健福祉部 本吉次長

函館市保健福祉部 金指地域福祉課長

函館市保健福祉部 小棚木地域包括ケア推進課長

事務局：市民部 佐藤部長， 横川次長， 米田市民・男女共同参画課長  
小林主査， 奥ヶ谷主査， 播磨主事

.....  
第5回函館市町会活性化検討会議 次第

1 開 会

2 報 告

(1) 町会ヒアリングの結果について

3 議 事

(1) 具体の取り組み（手法）の検討について

① 透明性・信頼性の確保（全体会議）

② 負担感の軽減（グループ分け協議）

4 その他

5 閉会

..... 1 開 会 .....

（事務局 小林主査）

それでは、定刻となりましたので、ただいまから第5回函館市町会活性化検討会議を開催いたします。本日司会を務めさせていただきます事務局の小林です。よろしくお願ひいたします。この会議につきましては、原則公開で行っております。

本日の会議の出席数ですが、委員18人中12名の出席，オブザーバー4名の出席をご報告いたします。また、終了時刻を12時頃と予定しておりますので、議事の進行に、ご協力をよろしくお願ひいたします。

..... 資料確認 .....

それでは、まず、資料の確認をさせていただきます。お手元には、「第5回函館市町会活性化検討会議 次第」、「『町会ヒアリング』における主な意見」、「具体の取り組み（手法）について」、「函館市町会活性化セミナーについて」を配付しております。お手元に資料は、お揃いでしょうか。

不足等がなければ、ここからの進行は菊池座長にお願いいたします。

..... 2 報告 .....

(菊池座長)

それでは、早速ですが「次第の2 報告」に入りたいと思います。

「町会ヒアリングの結果について」ですが、第3回の検討会議では、町会ヒアリングで個別の町会から聞き取りを行った「課題や問題」について、中間報告をしていただきましたが、町会ヒアリングが終了したという事で、最終的な報告を事務局からお願いします。

(事務局 米田市民・男女共同参画課長)

それでは、町会ヒアリングの結果について、ご説明いたします。

『町会ヒアリング』における主な意見」と書かれた、A4横の2枚ものの資料をご覧ください。

この町会ヒアリングにつきましては、町会活動の実態や今後の考えなどを把握するため実施したところであり、昨年9月から今年の10月まで、地域や規模、特徴などを勘案し、27町会にお伺いさせていただきました。

本日は、ヒアリングの中で出された意見のうち、課題や問題として整理できるものを1枚目に、課題や問題を解決するための方法として整理できるものを2枚目にまとめ、さらに、4つの取り組みの方向性ごとに分類しております。

それでは、1枚目の(1)課題・問題をご覧ください。

資料の見方ですが、取り組みの方向性に応じて、4つのエリアに分けており、左上が「自発的な参加の意識づくり」、左下が「魅力ある町会づくり」、右上が「透明性・信頼性の確保」、右下が「負担感の軽減」となっております。

なお、左端にある「活動への参加者が減少」などは、「自発的な参加の意識づくり」、「魅力ある町会づくり」の2つの方向性に関わってくるため、ライン上に記載しております。

また、円の大きいものは、多くの町会が課題や問題として抱えているものです。

次に特徴的な部分を紹介いたしますが、ご覧いただくとおり、右下の負担感に関するものが多くを占めており、その中でも特に、一番大きい円、「役員や班長のなり手不足」がほとんどの町会で課題と感じております。まず役員のなり手不足の原因といたしましては、退職年齢の延長や自営業者の減少など社会情勢の変化が影響しているほか、一度引き受けると辞められない、行事参加が当たり前になるなどの不安感も大きく関わっていると感じたところでもあります。

次に、なぜ、班長のなり手がいないのかと考えた場合、真ん中の下側の円、「班長や区長

の町会費の集金業務の負担」が原因となっております。こちらは、金銭を扱うことに対する不安を抱いている方が多かったほか、核家族化、共働き世帯の増加や、ライフスタイルの変化なども影響し、集金に何度行っても会えないということが、肉体的にも精神的にも相当な負担になっていると感じたところでもあります。

次に、意見として数多くはありませんが、「自発的な参加の意識づくり」の中で、「脱会者の増加」というのが特徴的かと思いますので紹介いたします。どうしても、町会加入率や加入者の減少を考えた場合、新規加入者の増加に目が行きがちですが、脱会者を減らすという観点も必要かと思われまます。

脱会の理由としては、班長就任に対する負担、子どもが大きくなり参加行事が減少、高齢により行事への参加困難、会費負担が困難などがあげられていたところであり、今後の取り組みのヒントになるのではと考えているところでもあります。

その他、主な意見をそれぞれ分類しておりましたので、ご覧いただければと思います。

続きまして、2枚目の(2)課題や問題を解決するための方法について、ご覧ください。

各項目ごとにいくつか意見をご紹介します。

まず、「自発的な参加の意識づくり」ですが、町会の必要性の周知や、街路灯の管理など町会が行っていることのPRの重要性が多く寄せられておりました。

また、情報発信の方法として、総会資料や町会だよりを、加入者・未加入者を問わず全戸配布している町会がいくつかありましたが、中には、業者に依頼しポスティングしている町会もあり、役員や班長の負担軽減にもつながる取り組みがございました。

その他、「魅力ある町会づくり」にも関係する意見として、加入メリットとして地域のイベントなどに使えるポイント制度の創設のほか、地域に特化した魅力ある情報発信、たとえば資源回収のルートなど、地域のお役立ち情報を発信するといった意見がございました。

次に、「透明性・信頼性の確保」では、ホームページ等による積極的な情報発信、開示に加え、監査について、通常、会員の中から選任するところを、外部に依頼したことがあるという町会もありましたのでご紹介いたします。

次に、「魅力ある町会づくり」と「負担感の軽減」についてですが、これについては、多くの意見がありましたが、特に連携に関わる項目が多かったところです。

具体的には、学校・地域包括支援センター・企業・近隣町会との連携を深めたいという意見があり、その方法は、実行委員会形式による行事の開催など連携を進めることによって、事業内容が充実し、町会の魅力度がアップするほか、活動の担い手不足の解消にもつながることから、非常に有効なものと考えられるところです。

そのほか、特徴的なものとしては、学生を役員に登用したことがあるという町会がございました。具体的に申し上げますと、青少年育成部の役員に学生に入ってもらい、同世代の目線で事業を検討してもらったとのことでした。

また、集金業務の見直しでは、数多くいる班長の負担を減らすために、集金人を雇うといったことや、中には、郵便局での払い込み方式を取り入れている町会もあったところがございます。さらに、町会への様々な依頼業務の見直しをすることで、負担感の軽減を図るという意見の一方で、「自発的な参加の意識づくり」にありますように、行政から業務移管を受ける

ことで町会の存在価値を高めるといった意見もございました。

以上、簡単ではございますが、資料の説明とさせていただきます。

本日は、この後、4つの方向性のうち「透明性・信頼性の確保」、「負担感の軽減」について協議していただくこととなりますので、議論の際には、町会ヒアリングの意見も参考にいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(菊池座長)

ただいま、事務局から説明がありましたが、たとえば「自発的な参加の意識づくり」の中ではPRが大事だとか、負担感の軽減や魅力ある町会づくりなど、今までこの会議の中で出た意見やアイデアと重なるところもあるかと思えます。

また新たに、私も興味深いなと思ったのは、業務を委託するという点です。

業者への委託であったり、外部監査を利用することで負担を軽減するという新しい手法の他に、学生さんに役員を任せることで、新しい風というか視点が組み込まれているのではないかなと思います。

今後、町会の活性化に関して、取り組めるアイデアや対策の参考になる意見があったと思いますが、皆さんから、何かご質問等はありませんでしょうか。

なければ、次の議事に進みます。

..... 3 議 事 .....

① 透明性・信頼性の確保（全体会議）

(菊池座長)

それでは、次に、「次第の3 議事（1）具体の取り組み（手法）の検討について」の協議に入りたいと思います。

会議の進め方ですが、取り組みの方向性「(3)透明性・信頼性の確保」については、皆さんと意見や認識を共有しながら、より議論を深めたいと思いますので、通常どおり全体会議の形で進めさせていただきたいと考えております。

また、「(4)負担感の軽減」については、前回の会議で、グループワークにより様々な意見を出していただきました「自発的な参加の意識づくり」や「魅力ある町会づくり」と関連性があるので、グループ協議を2班に分けて行いたいと考えております。

よろしいでしょうか。

よろしければ、事務局から資料の説明をお願いします。

(事務局 米田市民・男女共同参画課長)

それでは、資料1「具体の取り組み（手法）について」1枚目をご覧ください。

これまでの検討会議では、「町会費の使い道が分かりづらい」といった意見や、「町会に関わっていない市民に、もっと町会活動を知ってもらう必要がある」といった意見が出されてきました。

これらの意見について、視点を変えると、町会の「会計処理が見えづらい」といったことや「総会など意思決定や合意形成への不参加」といった、町会の会員が意思決定に参加してくれないため、限られた人たちだけで、活動を決定し、運営されているといった誤解が生じているようです。

また、「町会活動への関心が不足している」といった意見としても捉えることができます。

具体の取り組み手法といたしましては、皆様から6つの提案をいただいておりますが、大きく分類すると、「町会活動の見える化」「ICT化の促進」「その他」の3つに分類することができました。

「町会活動の見える化」の項目では、具体案として「分かりやすい広報紙の作成」や、すでに万代町会の事例として伺っておりますが、町会加入世帯、未加入世帯に関わらず、広報紙や総会資料などを配付することで、町会の活動や運営を知ってもらい、見える化を図っているといった意見もありました。

次に「ICT化の促進」の項目では、「ホームページなどで町会活動のPRや総会資料の開示」ということで、ホームページやFaceBook、ツイッターといったSNSを活用することや、「オンラインを活用した町会活動」として、役員会議やイベント打合せをオンライン化し、透明性を図るといった意見もありました。

最後に「その他」といたしましては、「業務を支援する人材の発掘や育成」ということで、町会が支援を求める活動、たとえば会計業務やイベントの準備、広報紙の作成などについて、地域の中でそれを得意とする人材を発掘したり、町会運営が持続可能な組織となるよう、人材を育てることが重要であるといった意見もありました。

また「会計ルールや組織運営のガイドラインやひな形の作成」としては、一般的なルールが記載されたガイドラインや統一的なひな形があれば、役員などの交代があっても、迷うことなく組織運営や適正な会計が行えるようになり、町会の透明性や信頼性にも繋がっていくという意見がありました。

以上でございます。

(菊池座長)

ただ今、事務局から具体の取り組み(手法)について説明がありました。

第2回の検討会議で報告のあった「市の職員アンケート」の結果からも、町会活動は、見えづらいとの声も一部あるようでしたが、町会を運営する側の皆さんは、これまでも、透明性の確保に努めてこられたと理解しております。

そこで、まずは、町会の運営に携わっていない方からご意見を伺っていきたくと思います。が、「どうすれば、分かりやすい広報紙が作成できるか」など、資料にある具体の提案に関することや新たな意見など、自由に発言していただきたいと思っております。

資料には、町会の見える化だとか、ICT化の促進、その他とありますけれども、たとえばどういった広報紙が分かりやすいか、逆にどういう点が分かりづらいのかなどか、そのほか、たとえばホームページについても町会PR、総会資料の開示というふうに記載されてますが、しっかりと閲覧していただくためには、どういった工夫が考えられるかなど、何か意見はあ

りますでしょうか。

(形部委員)

そもそも、興味のある人は、広報紙とかそういうのを積極的に読んでくれます。

けれど、加入しない人は広報紙もホームページもツイッターも見ないと思います。

なので、そこに問題があると思っていて、学校とかでも同様ですが、読んでほしい人には読んでもらえない、そこへのアプローチが1番悩ましいところであり、どこの分野でもそうではないかなと思います。

(菊池座長)

ありがとうございます。

どうすれば興味を持ってもらえるかということは、前回までのPRや魅力をあげることに関係すると思いますが、それを伝えるにはどういう方法が考えられるかとか、もしくは、現時点でのこういう点を少し変えてみるともっと興味を持ってもらえるんじゃないかなとか、逆に、ちょっと言いにくいかもしれませんが、こういった点があるからちょっと興味を持ってないなど、内容的にこうすれば透明性が上がるよなどといったご意見はありませんか。

なかなか難しいとは思いますが、今後の事も考えて、どうすれば興味を持ってもらえるか、ホームページも、とてもいい案だとは思いますが、たとえば、Googleとかでも、たくさん検索すると多くのリストがあがってきますよね。

そこで、先ほど形部さんがお話しされていたように、どうやって選択してもらえるかという事が大事だと思います。

また、町会の話ではないのですが、私の場合、子どもが学童に入る時に、付近にたくさんあったのでどこの学童がいいか、やはり市のホームページに一覧があったので、そこで色々選択というか検討しました。たとえば、市の広報紙やホームページで、一元的にというか、一括して、一覧とかで、町会の事が記載してあれば、見る方も増えるかもしれません。

皆さんはいかがでしょうか？

(浜田委員)

私の地域の町会は範囲が小さいので、大きい範囲には参考にはならないかもしれませんが、見てもらう事の難しさに悩んでいます。

まず、小規模の町会は、広報紙とか予算決算とかそういうのは印刷して各個配布してもいいのですが、大きい範囲の町会はどうなのかということです。

デジタル化にしても、我々は字が小さくて目が疲れてしまうのでスマホをあまり使わず、パソコンを使うのですが、函館市と検索してアクセスするっていうのは、手軽で簡単にできます。函館市のホームページの項目の中に、町会や町会連合会という名目を作って、そこに〇〇町会は今こういうのをやってるよ、とか掲載していったら、アクセスしやすいのではないかと思います。

(菊池座長)

ありがとうございます。

全体的に取りまとめをしていただけると非常にみなさんもアクセスしやすかったり、わかりやすかったりするのではないかと思います。

(神田委員)

今、皆様のお話を聞いていて、まずアクセスしやすいというのが大事だということ、そして、興味を持たなければならぬというのを認識いたしまして、私なりに考えたのは、私はPTAから来ていますので、保護者目線からということで意見を聞いていただきたいと思いません。

私どもは、やはり子どもが中心の生活を送っていますので、私たちの学校のPTAで作っている、「ななかまど通信」という広報紙があり、月1、ないし月2ぐらい発行しています。

こちらには、関係町会さんが4町会ありますので、その関係町会さんから何か行事やPTAのお母さん達に知らせたい事がありますか、などと聞きながら、載せてほしいことをPTAの広報紙の方に載せたりしています。

それはCSで立ち上げている共同活動推進委員会の広報紙ではあるのですが、まだPTA寄りのものではありませんので、将来的には、全体が均等のとれたものにしたい。

地域に住む高齢者の方でも、町会に入っていない保護者の方でも、共同で読める広報紙がもしもあった場合、自分が興味のない、たとえば老人会がありますよとかそういう内容であったとしても、おのずと目に入ってくるのかなと思います。

私も町会さんのおたよりはよく隅々まで読むのですが、その中でもやはり子ども達とクリスマス会をやりますよとか、お知らせしてくださるとありがたいことがたくさんあります。

ですが、なぜか保護者の人は町会だよりとなると、なかなか見てくれないのかもしれないと思っています。

なので、パッと見やすい、自分が当事者じゃなくても、当事者っぽく見せるやり方があればと感じました。

(菊池座長)

ありがとうございます。他にご意見はございますか。

(平形委員)

以前、広報の仕事をしていたので、その時に感じた事などを参考にさせていただければと思います。

まず、私は、ステップアップという雑誌の方を作成しております、その中には色々な施設の紹介と、今はちょっと形態が変わってしまったのですが、別途、市内の色々な所で行われる行事を全て網羅するというので、付加価値をつけることで自分達の施設の紹介をうまく取り込んでいくというような手法で広報紙を作っておりました。

たとえばですが、それぞれに色々な特色がある町会だよりですが、浜田委員がお話しされ

たように、限りのある予算の中で、地域の特色を広報紙に載せていって、さらに活動内容を透明化していくというのが広報紙の役割ではないかなと思います。

これから理想論をお話しすると、たとえば A3 の両面の広報紙があったとすると、片面には、個別町会の話題や町会のお仕事を紹介したり、イベントの告知、子どもの見守り活動など、それぞれのお知らせを載せ、もう片面には、町会全体として共通にお知らせしたいこと、町会の役割や他の町会の行事などを載せるというような形にする。

理想をいえば、一元的な組織というわけではないのですが、共通の部分を検討するような広報の委員会を立ち上げられると、そういった作成に、少し望ましい形になっていくのではないかなと感じました。

(菊池座長)

ありがとうございます。

非常に参考になったと思います。他にご意見、ご提案などございますか？

(形部委員)

広報以外で透明化を出すということで、当町会では保護者の人たちとか会社員の皆さんが通勤時に道路を通る際に清掃活動や、見守り活動、子どもたちと一緒に登下校をしてみるなど、一緒に何かをする活動を見せることで、役員はこういう風に働いていますよ、どうぞ皆さんも一緒にやりませんか、というような事をたびたびアプローチしながら、もし力を貸してもらえるのなら一緒にやりませんか、というような方法をとったりしています。

また、先ほどあったように、広報紙はやっぱり見てもらえないということが多々あるので、その未加入世帯のニーズにあわせた広報紙とか、子どものいる世帯には子どものことが載った記事だとか、ニーズやターゲットに合わせて、加入促進しながら一緒にお渡ししています。

さらに、町会員さんに、誰か入ってもらえそうな人や、1人暮らしで困っている人は知りませんか、というようなお手紙をダイレクトにお渡ししています。

ここ数年ですが、やはり活動を見ていて若い世帯が若い世帯を呼び込むという、口コミ効果が、一番大きかったのではないかなと思っています。

(菊池座長)

ありがとうございます。

なるほど、ただ紙を配るだけではなく行動や活動を通じて広報、PR をすることで、口コミで広がっていくということですね、すごく素晴らしいと思います。

それが本当の友達なのかもしれませんね。

何か、他にご意見はございますか？

(笹谷委員)

全世帯に町会紙を配るという事も、どういう活動をしているかわかるということで町会活動の見える化の一コマとしてお話しします。



まず魅力的な広報紙として、町会ではボランティア活動やイベントを結構している状況ですが、広報誌に、活動後の参加者数やその参加して頂いた方の感想やコメントを一言載せるとか、浜田委員が作成された町会だよりでは活動時の写真をたくさん載せていましたが、たくさんの写真は載せることができなかつたとしても、全体的なゴミ拾いの写真を大きく載せるとか、フィードバックして、結果を載せると、私の住む町会ではこういうことをしている、ということが、町会に入っていない方もわかるので、見える化につながると思います。

あとは、子育て世代と高齢化で二極化していると感じます。

学校のPTAのおたよりは、大抵が手書きではないのですが、ちょっと細かい字で書かれていると、私自身、子育てから離れてしますと、自分の意見で申し訳ないのですが、あまり関心をもって見ようとは思わなくなっております。

たとえば、大きい文字で子育ての方に魅力のある内容と、高齢者向けの内容、あと全体的な市などとの連携といった内容というように、大きく3つ位にわけた1枚物があり、全戸配布するのであれば、町会ではこういう活動をしており、加入するとメリットがあるよというのを打ち出した表示的なものがあればいいのかなと思ったのが率直な感想でした。

(菊池座長)

ありがとうございます。

やはり加入世帯、未加入世帯含めて、子育て世帯や高齢者だけではなく、独居世帯であったり、それぞれのニーズですよね、読むところが違う、目に入るところが違うというのがたしかにあると思います。それで新聞じゃないですが、やはり最初に読むところは、それぞれのニーズで考えていかなければならない。

全世界帯に広報紙を配るということは、逆にそれを読んでもらうためには、読むことで知り得る情報が為になるものであったり、町会に加入する事で、言い方が良くないかもしれませんが、メリットがあるということが伝われば、次第に加入も進んでいくのかもしれませんが。

また、先ほどお話しされていたように、私なんかは、老眼が進んで小さい字が読みづらいというのもあって、子どもがいますので、やっぱり子どもに関する情報から見ていったりするわけですが、ある程度手に取りやすいことが大事なのかなと思います。

それでは、他にも、検討会議で既に提案された取り組みのご意見の中であがってこなかったものとして、業務を支援する人材の発掘や育成に関して、たとえば町会が求めるサポートとはどういうものなのか、また、ボランティアも含めた人材については、いきなり色々な活動ができるわけではないので育成なんかをする必要があるのかなと思いますが、何かアイデア等ございましたらお願いいたします。

(竹内委員)

私が今感じた意見ですが、広報するなり紙媒体というのは、私が入会している町会は、文字だけしかなく白黒なので、正直、来てもサッと目を通して、そのまま見ないというのが正直なところだと思います。

文字に慣れていない世代の方はいいと思いますが、若い世代の方は、インターネットですと

かそういったものを見慣れているので、パッと目をひくようなことでないと興味を持たない世代が多いと思います。

前回までも、学生さんとかに協力してもらったらどうかという意見もあったと思いますが、学生さんや若い世代のアイデアを募って、たとえば昨今、行政とかが制作した PR 動画など、面白い動画で興味を湧かせるというのもあるので、町会連合会なりで PR 動画みたいなものをつくったり、たとえば、ゆるキャラじゃないですが、興味を持たせる、目を引かせる手法を考えて広報していければいいのかなというのを感じております。

(菊池座長)

ありがとうございます。

先ほど笹谷委員もお話しされてましたが、写真や動画とかでアウトプットしてあげると、若い人とかは伝わりやすいのかなと思います。

以前浜田委員に持ってきていただいた町会紙にもありましたが、やはり写真が多いことで、自分や知っている人が写っていたり、活動自体がわかりやすいというのがあると思います。

また、町会連合会が PR 動画をつくったらどうかという話もありましたが、それらも含めて、少し全体として何か取り組むことがとても大事かと思えます。

(浜田委員)

やっぱり若い人の考えは素晴らしいです、色々な案が出てきて、すごく勉強になりました。

私も、ちょっとした気持ちで広報誌を作成し始めて、今は毎月発行で、54回目になるんですが、約4年か5年継続しております。

ただ、うちみたいに200や300程度の世帯数ならいいと思いますが、何千という規模のところは、大変なんじゃないかと思えます。

わかりやすく、見やすくするとすれば、それだけお金もかかるので、町内会の予算の中で作成するには結構な割合の予算になるので、これを大きな規模の町会がやったら、すごい金額になって、町会の負担になって、町会費が高いから脱会するなどの逆現象が起きるかもしれないので、本格的にやるとすれば、市からの補助も必要かもしれない。

だから、ある程度規模の大きい町会であれば、むしろ紙媒体を使わないでインターネットのホームページで、たとえば函館市について検索したいのであれば函館市と打つと色々出てくるので、そのページに町会連合会のコンテンツをつけて、その中に色々な町内会についての情報を載せる方が検索しやすい。

また、最初の透明性の話になりますが、各町会に函館市からの交付金を受け取る条件として、町会はどういう事業をやっているのか、これからの計画はどういう計画なのか、そして予算書決算書をつけないとなりません。だから資料は市にいっぱいあるわけです。

そういうのを、ホームページでどんどん出せばいいと思います。

そうすると疑問を持っている市民が、アクセスすると見えるわけですから、ここの町会はこういう使い方をしている、透明性が図られるというわけです。

今までは、そういうのがないから、一生懸命、町会の人たちがきちんとやっても、適

当にやっていると思われていたり、相手のこともわからないから疑念を持つんですよ。

先ほど言ったように規模が大きく、2,000とか3,000とかある町会は、広報紙も難しいのではないかと思うので、逆に今はもうICT化の時代ですから、どんどん利用した方が効率的だと思います。

以上、懸念を言ってみました。

(神田委員)

今、浜田委員がお話しされたICT化はすごく私も賛成で、学校もそうしたいところです。

やっぱり、紙は、本当にたくさん刷りますし、印刷代もかかりますが、そうかといって、子ども達がちゃんと保護者に渡しているかっていうとどうなのか、という感じなので、私たちは、ダブルスタンダードで紙とメールの両方で保護者にそのお手紙を渡しています。

ですが、最終的には、ICT化に移ってくれたらいいかなと思います。

それであれば、学校では厳しいと思いますので、共同活動推進委員会としてツイッターを立ち上げて、そこで、たとえば学校の保護者に向けての情報を写真をつけて載せる、コメントは取らない、などとして、そこに関係町会さんの情報も載せるだとか、私は学校側の立場として学校を中心とした話になってしまいますが、全体的に地域が学校を軸として、そこに色々な地域の情報を盛り込みながら発信していくのも良いかと思っています。

あとは皆さんが見られる状況をつくる事がやっぱり大事だと思っていて、地域の方で共同活動に来てくださっている町会の方は、やはり、どうやってメール受信したらいいのか、どうやってツイッター見たらいいのかとお聞きになるので、私の方でお手伝いするのですが、それを全体的に広くみんなが使えるように設定するというのも課題なのかなと思っています。ただ、ICT化はすごく大賛成です。

また、町会の人材派遣ですが、私どもの学校も大変人材不足ということで、どうやったら人材を確保できるのか、毎回やっぱり課題にあがります。

その中で、前に形部委員ともお話ししていましたが、枠を超えたいという話をしていました。

学校は、学校のお母さん達でまかなったり、町会さんでまかなったりしますが、本当にやりたいと心から思っている方は各所に点在していたり、各種団体の方がやりたいと言ってくれるのですが、どうしても私たちには校区の問題があるので、なかなかそこから抜けられません。

ですから、校区や枠を超えて、ちょっと行き来ができたり、助っ人に行けたり、同じような思想でこういう事をやりたいとなっていれば共同でそれを行えたりができれば。

とにかく人がほしいというのが心からの叫びなので、なにかそういう枠を超えられる方法はないかなと毎回私たちの課題にあがっております。

(永澤委員)

色々な活動をする方が点在しているから、1つになって何かをしたっていうお話が出ていましたが、それについて、私は、誰かに頼るというよりは、まず行動してみるのがよい

と思います。

というのは、私はお年寄りの関係で色々な活動をしていて、それで町会の活動も町会長という立場でしているのですが、垣根を越えるために、1つの団体を立ち上げて活動しています、今年で12年目になります。

もともと、町会ではない活動として5、6人で会を立ち上げ、それが今では会員さんも30数名いまして、そういう活動ってというのは、みんな同じ志で動くので、すごくやりやすいです。

函館の地域福祉を考える会を立ち上げて、私は万代町会ですが、万代町限定の活動ではなく、全市的な活動なので、会員さんもあちこちに点在しています。

こういう事例も作れますので、若いうちに、どんどんやってみることも必要だと思います。

ただやりたいで終わってしまうのは、もったいないので、1回やって、それこそ失敗もありますし、こんな効果があるのか、と感じることもありますので、どんどん挑戦して行って、欲しいと思います。

(神田委員)

ありがとうございます。頑張ります。

(永澤委員)

私たちが、子どもからお年寄りまで、全般的に活動していましたが、今は中止になっています。たとえば、先ほどから広報紙の話も出ていますが、広報紙を刷るにも教育大の学生さんに手伝ってもらって8年間作ってきましたが、やはり授業の単位の都合もあり、教育大の先生の授業が夜の7時から始まるので学生が来れないという問題もあって、今、広報紙についても中止にしている状況です。

また、子育ての部分では、育児に一生懸命やっている方を手助けしてあげるだとか、色々なやり方がありますよね。

寺子屋もやっていましたが、それも学生さんの単位の問題があって、現在は休止していますが、近隣町に元教員の方がいらっしゃるので、そこへお願いに行き、もう1回寺子屋を復活させようと動いている最中です。

だからとにかくやってみれば、ここの町会ではこういうことをやっている、というのが理解されていくと思います。

そしてICT化の問題ですが、私は、ICT化が進めば、お年寄りは置き去りになるんだなという気持ちもあるので、両方並行して進めていかなければならないと思いますし、そこが難しいところでもあります。

あと、町会の見える化についてですが、私の町会では、町会に加入している人にも加入していない人にも、全部総会資料は配っていますし、行事があるごとに、たとえば今は餅つきをやるのですが、全世帯に案内を配布しました。

しかしながら、印刷するのにお金もかかります。

そこで、ある企業さんの協力で、データだけ持っていけば、A4カラーでも、1枚1円で印

刷してくれる所もあるんです。

会を立ち上げて活動に共感していただいて、お金がないのであれば、印刷の部分は助けるよっていうお話も出てきましたので、活動をしていると自然と協力してくれる。

ですから、透明性について、会計の部分は、うちは総会資料を全戸配布していますし、監査についても、どうしても町会だけでやると何かおかしいことが起きたら困るということで、万代町の企業の方が監査を務めてくれていて、やり方がちょっと違くと、ここはこういうふうにするとやりやすいよ、などアドバイスがもらえて、とても感謝しています。

(常野委員)

今、枠を超えてというお話がありましたけれども、やはり1町会だけだと会計の問題もありますし、全市的な取り組みというか、足並みを揃えていくというのはとても大事だなと思っておりました。

私たち包括支援センターも10センターあって、定期的な取り組みをすとなれば、協議会を設けて10センターで足並み揃えて行っていくのですが、そういった透明性とか信頼性っていうところの課題を全市的に取り組むには、どなたかがイニシアチブをとるだとかが必要なんじゃないかなというように思います。

先ほどから町会連合会という話が皆さんから出ていましたが、色々な連絡調整や研修会を開催したり、交流会の企画をするなど、町会連合会さんがとても頑張ってくさっていると思います。テーマにもある会計のルールや組織運営のガイドラインなどをつくったり、広報のあり方ということについても、たとえば連合会で全市的に、全町会へアドバイスをしていったりなど、そういった取り組みができれば、会計や経費の部分といったところも同じ方向をみていけるのかなと思いましたが、その辺はいかがでしょうか。

(菊池座長)

ありがとうございます。

そうですね、やはり取りまとめというか、先ほど浜田委員がお話しされていたように、たとえば各町会でホームページをつくっているのを取りまとめしてもらえとか、会計のルールや組織運営のガイドラインがあって、それを参考に函館市の町会がどのように運営しているのかという事を一括で見られると、非常に透明性が高くなるのではないかと思います。

それがたとえば、それを取りまとめる役割として町会連合会というものがあるとなれば、実際に町会連合会がどのような役割をされているのかなど、オブザーバーの中村さんに少し教えていただきたいのですけれどもよろしいでしょうか。

(町会連合会 事務局長 中村オブザーバー)

町会連合会とは何ですか、役割は何ですかというお話ですが、結構会議中にも話題に出ているので、なんとなく皆さんもご理解して頂いているのかなとは思いますが、やはり単町会でやっているとあまり実現性がなかったり、効果が薄いことがあります。

たとえば、各町会さんでは、学校の登下校に関して見回り活動をやっている、大変良い活

動ですが、今年の4月以降、実は函館市内で、ナイフを持ってブラブラしている男がいるとか、不審者情報がかかなり多く出ており、これに関して、やはり函館市全体でそういった防犯活動をした方が、抑止効果が高いのではないかという意見が出ます。

そういった時に、我々は連合会として、単町会ではなく市全体として防犯活動をやる。

たとえば、これは先週の10月20日の話ですが、市全体の防犯活動が実現し、全市の町会の役員の方530名位が出動して各小学校に行き、下校時の見回りしました。

そうすると、やっぱり抑止活動って効果が高いと思われるところです。

あとは、今回はあまり話題として出てきておりませんでした。各町会では、市や道などの行政機関に対して、色々な要請や陳情等などを行っている役割もあります。

これも、町会が単独で、個々の要望を市に働きかけても、なかなか思うように進まなくても、町会連合会として、函館市の町会全体の意見ということで、まとめて出すことで、意外と実現性があったりもします。

そういった時の全体としての取り組みを担っております。

それと、マニュアルや指標なんかをつくるべきだとありますが、これも、今回のコロナの件もそうですが、コロナ以前の町会活動と、コロナ後の町会活動とでは若干変わってきていて、制約もかなり受けておまして、個別町会でマニュアルや指標をつくり運営できているところもたしかにあります。それをできない町会も結構多いんですね。

そういった町会に対して、できている町会の意見をまとめて1つのマニュアルをつくり、全町会さんに配布して、少しでもリスクを減らし、安全に町会活動ができますような取り組みも行っております。

というように、全体として取り組んだ方がいいなという活動に関して、連合会としてまとめて取り組むといったところが役割なのかなというように感じております。

(菊池座長)

はい、ありがとうございます、非常にわかりやすかったです。

これまでの会議でもそうでしたが、町会のホームページのまとめサイトを町連で作成していただいたらどうかというご提案があったり、先ほども、実際に運営できている町会のやり方等をマニュアルやガイドラインのひな形として全町会に提示されたりとか、色々取りまとめた活動をされてらっしゃると思うんですけど、さまざまな場面で町会連合会の役割は重要になってきますので、とりまとめという意味では、今後、市と町会連合会の連携を強めていくことが必要だと考えられます。

(事務局 佐藤市民部長)

1つ補足してもよろしいでしょうか。

ただいま町会連合会の役割ということで具体の説明を事務局長の方から紹介していただきましたが、基本的に、単町会、1つの町会さんが色々な相談をしたり助言をいただくというのが、一義的には町会連合会さんの役割でありまして、その中で私ども市も、町会連合会

さんと一緒にその町会さんが抱えている課題解決に向けて取り組んだりすることもあります。

では、市と町会連合会の役割はどう違うのかというお話しになるかと思いますが、基本的に、町会連合会さんは町会の立場で全市的に立ち自ら旗を振って各町会さんを牽引していく役割を果たしていただいているのですが、市といたしましては、全市的もしくは広域的に、こういった取り組みで町会さんが市政発展に取り組めるか、というような視点で動いており、もっと全市的な町会の取り組みをすることでまちが良くなる、まちの活性化につながるなど、そういったことに対して、市が積極的に助言をしております。

ですから、実は町会連合会さんと市はどちらかという両輪で各町会さんの支援をしているというように認識しております。

なので、直接市に相談にいらっしゃる町会さんもあれば、まずは町連の事務局の方に相談に行くという町会さんもいらっしゃるので、そこはダブルスタンダード風にはなっておりますけれども、基本的には、町会連合会さんが1番身近な相談やアドバイス機能を有しているところであると考えていただければと思います。

(菊池座長)

ありがとうございます。

つまり、市と町会連合会は両輪だというお話でしたが、連携を強化していただいて、今後も町会を支えていただきたいと思います。

それでは、時間の都合もありますが、皆さまから色々なお話、ご意見等を伺って、加入世帯、未加入世帯、様々な世帯のご家庭の事情であったり、その世帯の状況であったり、そういうものにあわせて、たとえば紙媒体での広報紙作成時に、予算の関係もあるのかもしれませんが、写真など、文字だけではなく何かアイキャッチというか目にとまるような工夫が必要なのではというご意見もありましたし、また、紙媒体だけではなくて、見れる方はインターネットなどを通じて、たとえばツイッターやインスタグラム、もちろんホームページなんかも色々ありますけれども、できれば町会連合会さんが、ちょっと音頭をとっていただけるといいかなと思います。その際に、見やすくなる工夫をお願いしたいと思います。

紙媒体で見える方ももちろんいらっしゃいますし、やはり紙ではなくてスマホやパソコンで色々な情報を収集される方もいらっしゃいますので、そういう風に両面から進めていくと、うまくいけば非常に見える化というか、わかりやすい、透明性っていうのは出てくるのではないのかなと思います。

加えて、人材の発掘の面では、もちろん自分達で活動するというのも大事だと思いますが、たとえば、人材を登録できる何か、人材バンクというようなアイデアも前回のグループワークでは出てきたとは思いますが、何かそういう一元化したようなものの、提案や対策が皆様からあがってきたということは、今後の活性化について非常に参考になると思います。

ということで、透明性、信頼性の確保については、以上でよろしいでしょうか。

皆さんで、他に思いついたことがあれば、また、後ほどお願いします。

## ② 負担感の軽減（グループ分け協議）

（菊池座長）

それでは、続きまして、次の資料、取り組みの方向性（４）負担感の軽減についての協議に移りたいと思いますが、座席移動等がありますので、事務局から準備の説明をお願いします。

（事務局 小林主査）

それでは、これから２グループに分かれて協議を進めていただきますが、グループ分けにつきましては、この座席の右側Ａグループと左側Ｂグループに分かれて、後ろの座席を使用いたします。

進行役ですが、Ａグループは菊池座長に、Ｂグループは常野委員にお願いしたいと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。（各委員：いいです。）

協議終了後は、グループごとに協議内容の報告をしていただきますので、移動した後、報告者と書記を１名ずつ、２分程度で決めていただきたいと思います。

タイムスケジュールですが、グループ協議を３０分ほど、発表をグループごとに５分ずつ行い、発表後にお互いの意見について、１０分から１５分程度、議論を深めていただきます。

時間経過のお知らせとして、中間の１５分前と、終了５分前に合図致します。

それでは、恐れいりますが、ご自分の座席表をお持ちになって、座席を移動して下さい。進行役以外の席は自由となっております。

（菊池座長）

準備が整いましたので、事務局から資料の説明をお願いします。

（事務局 米田市民・男女共同参画課長）

それでは、資料１「具体の取り組み（手法）について」２枚目をご覧ください。

具体の取り組み手法としては、９つの提案をいただいております。

大きく分類すると、「外部人材の活用」、「気軽に参加しやすい仕組みづくり」、「新たな手法による財源の確保」、「企業や団体等との連携」、「その他」の５つに分類することができました。

「外部人材の活用」では、「町会ボランティアとしての人材の確保」ということで、軽いお手伝い的なお願いができる人を見つけることや、「経験を活かせる人材の活用」ということで、町会だけでは、難しいことも、専門的な知識や経験を持った人材を確保することで、様々な取り組みも可能となり、労務対価についても、しっかり考えることで、継続性も生まれるといった意見がありました。

次に「気軽に参加しやすい仕組みづくり」では、「義務的にならない軽いお手伝いの呼びかけ」ということで、まとまった時間が取りづらい子育て世代でも、隙間でお手伝いが出来るといった雰囲気や町会の活動に参加できるきっかけになるとの意見がありました。



これは、前回の会議で協議された「魅力ある町会づくり」の、「町会活動の参加のきっかけづくり」にも繋がっていくと考えられます。

次に「新たな手法による財源の確保」では、斬新な意見として「クラウドファンディングなどの活用」といった意見がありました。実際に取り組もうとした場合、仕掛けが難しいと考えられますが、何かアイデアがあれば、提案していただきたいと思っております。

次に「企業や団体等との連携」では、「他町会との情報交換会の実施」ということで、負担軽減の好事例など、他の町会から取り入れることも必要であるとの意見がありました。

また、「地域内の企業や団体などとの関係づくり」として、連携するためには、まず初めに企業や団体との関係づくりが必要であり、次に「企業、福祉団体、学校や近隣町会などと共同による活動の実施」として、たとえば「福祉活動など、活動の目的が同じ団体」や「地域貢献を目的とする企業」などと活動することで、マンパワーといったスケールメリットが生まれるなど、負担軽減につながるとの意見がありました。

最後に「その他」といたしましては、「町会の活動内容の見直し」ということで、新たな取り組みを始めると活動が膨らんでしまい、人的にも財源的にも負担が大きくなるので、必要が薄れている活動は見直すといった、町会の規模に応じて、活動を選択していくことも重要であるとの意見がありました。

また、これまで、この検討会議で意見がありました「町会費の公平負担や集金方法の見直し」についてですが、現在、町会には交付金という形で、既に税金が充てられております。

この税金による町会への財政支援の割合が、増えていった場合、考えられるメリットやデメリットについて議論していただきたいと思っております。

また、これまでとは違った集金方法についても、実現性を含め協議していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

(事務局 小林主査)

それでは協議に入ってくださいなのですが、時計で11時35分を目処にグループ協議をしていただきます。

私から、残り10分前と5分前にお声がけします。

35分以降にそれぞれ5分ずつ報告者に発表していただきまして、残り10分で意見交換をしていただくという流れでお願いします。

## 【Aグループ グループ分け協議】

大矢委員（書記），菊池委員（進行役），笹谷委員，西谷委員，  
浜田委員，平形委員（発表者）

（菊池委員）

まず、負担感の軽減についてですが、先ほどの町会ヒアリングの調査でもあったと思いますが、ここのボリュームが大きいですし、町会の活性化の肝なのかなと感じます。

たとえば町会ボランティアとしての人材が足りないというお話が先ほどもありましたし、先月もありましたが、たとえばどんなボランティアが実際に必要な、とか、どういう風になれば参加しやすい仕組みになるかな、というところについて何かご意見があれば。

たとえば先ほども、文字の多い町会紙は読みにくいという意見がありましたが、人材が必要だという内容を、びっしり文字で書かれているとわかりにくかったりすると思います。

内容的にも、たとえば義務にならない軽いお手伝いの呼びかけとの記載があるが、どういうやり方があるのか。

なんでもいいので、皆様全員からご意見いただければと思います。

たとえば、町会ボランティアというか、実際に人材が足りない活動はどういうものがあるのか、思い浮かぶことはありますか。

（浜田委員）

後継者がいないということですね。

会長を引き受けるとか役員を引き受けるとかが大変。

うちの方みたいに小さな単位では、人材確保のためには、町会合併しなければならないと思っています。

市レベルでは大きい単位なので考えられないかもしれないから、参考にはならないと思いますが。

小さな単位の町会は、人材確保のためにはやはり広くまとめていかなければならない。

それがまた大変なことです。

（平形委員）

全部の問題でもあると思いますが、まず後継者がいないというところ。

そして、たとえば、結局小さな町会だとそれだけ入ってくる費用、入ってくる財源が少なく、後継者もない。

そうなってくると、浜田さんが言ったように、究極な結論としては、合併して色々なことをやっていかなければならず、小さい町会としてはそういう取り組みをしていかなければならないというところですよ。

また、大きいところは大きいところで、たとえば、広報誌を配るのにもそれだけ費用がかかるという逆の問題が起きる。

そういうところがあるので、やはり、その中でも人材が足りないという問題に対しては、

地域ができないところを、ボランティアとかでカバーする人を立ち上げるためにどうしたらいいかというところになります。

考えなければならないのは、一元的な、全町会が一度まとまれるようなところがあり、そこから手薄なところに人材を派遣できるような仕組みをつくらなければならないという事だったり、財源を割合によって割り振りするなどかと思えます。

財源確保のためには、先ほど永澤委員が言っていたように、各企業の協力を得なければならないというところがあるのですが、そういう賛助というか、お金をいただくことも、一度一元的なところに集めて分配するなど、そういう仕組みが最後には必要になってくるのではないかと感じています。

(菊池委員)

人材バンクというか、人材のストックというか、登録などが簡単にできるといいと思いますよね。

結構他の町会さんのを見ていると、色々書いたり、保険に入ったり、ジャンバーを買ったりしていて、ハードルが高いのかと思う時もあります。

そういう人手と財源に関しては、市や町会連合会さんに音頭を取っていただくというのがやりやすいのかもしれないですね。

(浜田委員)

逆提案なんですけど、私の考えではないが、昨日インターネットで京都新聞を見まして、その中に、町会に入りたくない人の理由が書いてありました。

理由は大変だから。

何が大変かという、まずは、集金、会費を集めること。

50軒も集めるのに大変な思いをしたため、私は脱会しますと。

それから、次に大変なのは広報をまいて歩くこと。

もう1つ言えることは、会社のお付き合いで手一杯で、近所のお付き合いをしている余裕がない、できるだけ接点を持ちたくない、その方が気楽に生きられる、と。

孤独を好むという風潮が若い人に多いという話が記事にありました。

その逆を考えれば答えが出るのではないかと思うが、なかなか頭を悩ませています。

(菊池委員)

先ほど町会ヒアリングのまとめにもありましたが、集金業務を業務委託というか、他の方に実際に報酬を渡してお願いするというのもありましたよね。

それと、広報のポスティングについても、実際に報酬を支払ってしてもらおうというのもありましたね。

つまり、メリットがわかって、さらに面倒くささがなくなればということですよ。

これと似たようなことでも、他に集金方法を、もちろん誰かにお願いするという方法もありますが、自分達で支払の方法を選択できる、たとえばゆうちょで振込できるとか、何かア

アイデアはありませんか。

ポイントが貯まるとかもよく出てきますが。

それでは、皆さんはどれが一番実際にお金を支払いやすいですか。

(多数委員)

コンビニですかね。

(菊池委員)

そうですね。

あとは、引落ですかね、振込だと忘れてしまうこともありますからね。

(笹谷委員)

そもそも、なんで町会に入らなければいけないのというところですよ。

入らなくても別に困らない。

それが具体的な感覚ですよ。

引っ越した時に、近所の人から町会に入ってくださいと言われて、つながりがあると入るのですが、言われたい人はずっと入らない。

転勤族だったり、アパートだったり。

そこで人材の確保といっても、そこには長年いらっしゃる人がいて、年配の人がいて、参加したとしても、賛助会員みたいな感じで、物もただ配るだけで特に興味が無いし、そこにイベントがあったとしても行く気にならないというのが現状あります。

そこを打開しないと、ただ色々なことをやったとしても、無理なんじゃないかと思うところがあります。

先ほど配られた資料の中にも、ホームページやICT化というお話がありましたが、これは若い人の中では普通になっているものの、函館市は高齢化で年配の人口が多いというところで、これからどうするのとなった時に、いくらつくったといっても、全戸に配布して、QRコードをつけて、見たい人は見られるという風にしても、やはりわざわざアクセスしていかないと思います。

ただ、見える化ということでは、一生懸命やっけていて不正をしているのではと疑う人がいるとお話でしたが、そういう一部の方がそこにアクセスしていくと、どういった基本的なところを町会が担っているかというのが見えれば良いと思います。

ただ、そこまで詳しく入っていくとなると紙では難しいと思うので、そこは1枚の紙媒体で色々なお知らせの中にQRコードをつけて、コンビニの払いができるとか、とにかくそこに加入すれば何ができるというのを言わなければ、加入しないと思います。

知らない人が来て、加入して下さいと言われてたとしても、いや遠慮します、となるし、強制力があまりにもなさ過ぎるので、色々なことを話しても、一方で、家に帰るとすっかり忘れていた自分もいるんですね。

自分の中でも、どうやって入っていったらいいか。

ボランティア活動をしますよとなった時に、わざわざ電話をして、いつ、こんな感じという積極的な自分がないのが、自分でもがっかりするのですが、回覧が回ってきた時にはこの日にあるんだなと思っていても、もし暇だったら、予定がなかったら行こうかなと思っていると、そこは回覧で過ぎ去ってしまうというところもあります。

やろうと思えば色々なことができると思いますが、そこまで入っていく労力というか、暇というか、時間がないという現実的なところもあり、自分自身もどういう風に関わっていけばいいのかなと思ったりします。

イベントがあったとして、昔実家にいた時のように、近所の人達と一緒にいこうよと誘う世代でも世間でもないで、そのつながりをつくらないと、難しいのかなと。

その先に色々こういうところがあるのかなと。

ただ、企業さんというところでは、今は地域貢献活動とか、そういう風に函館市と包括連携協定を結んでいる企業さんが多いので、そういうところに市では協力を呼びかけていただく。

ボランティア活動に参加するという面では、〇〇町会さんではこういうボランティア活動をいつするので参加してくれる企業さんはいませんか、という呼びかけを市でやってもらうとか。

2方向でやらないと、なかなか難しいのかなという風に思っています。

人材についても、総会に参加しないと、自分という人材的なものを役員の方に知られていないという方がたくさんいらっしゃると思います。

ボランティアの参加を募るにしても、取り組みの説明をお知らせするにしても、いかに町会の会議に参加させられるか、引っ張ってくるにはそこだと思っんです。

そこからの第一歩で、ボランティア部をつくるとか、色々な若い人の意見で町会をどのように活性化させていったり、負担感がないようにするかとか、そこをどういう風にしたらいいいのかと以前は考えていたのですが、なかなか答えが見つからないという現状です。

何か皆さん、これがいいんじゃないかというものはありますか。

(菊池委員)

高専でも、学生にボランティアを頼む時は、単にボランティアと言っても来ないので、単位をつけたり授業の一部にしたりします。

だからどうしても、ボランティアに外部人材を活用する場合には、もう少し町会連合会さんとかが、登録をしやすいとか、何かをするとメリットがあるだとか、学生でいえば単位というメリットですよね、メリットというとボランティアとは反するかもしれないですが、このハードルを低くするには何か工夫が必要なのかなと思いますよね。

(笹谷委員)

確かにボランティア活動も、単位はきっかけであって、ボランティア活動に参加した時に達成感があったり、味わったことのない気持ちというのが生まれるということは大切だと思います。

きっかけづくりはすごくいいですよ、先ほどのポイントもきっかけづくりとしてはいいのかな。

(西谷委員)

先ほどからボランティアという言葉が出ておりましたが、社会福祉協議会ではボランティアセンターを実施しており、ボランティア活動をしたい団体や個人の方の登録をさせていただいて、ボランティアに来て欲しい団体と活動したい方とのマッチングをしています。

その他に、町会ヒアリングの資料にもありましたが、今社会福祉協議会でやっている事業が、くらしのサポーターというサポーター制度の導入です。

平成28年度から函館市からの委託でやっていて、地域の住民主体の助け合い活動の中心になるボランティアの養成をしています。

もともとは介護保険の総合事業からできてきた、くらしのサポーターの養成研修で、平成28年から養成研修を実施していて、200名以上のサポーターが研修を受けられるのですが、その中から登録という形をさせていただいております、現在60名ぐらいの登録者がおります。

その方々が今後自分たちで地域の居場所をつくったり、ボランティア活動を率先してやられていくのかなと思います、部外のセンターの活動の場の提供もしていかなければならないかなというところで、今、受け入れがなされるのかということを進める段階です。

町会さんの方には、これからこういう事業をやっておりますよという紹介をしていくところです。

老人クラブさんの方には一度お邪魔をさせてもらっていて、役員とはまた別だと思いますが、人材というか、たとえば地域のイベントがある時の手伝いですとか、もしかしたら広報誌をつくるのが得意なんだよという方が出てくるかもしれない。

ボランティアとしては人材につながっていけばいいなというようなまだ段階の話ですが。

(菊池委員)

そのボランティアセンターの登録というのは、研修を受けたりするとのお話でしたが、結構、道のりはそれなりに長いんですか。

(西谷委員)

そうですね、ボランティアセンターの登録は、全然研修とかは無く、個人の希望でできますが、養成研修に関しては、1クール5回の研修を受けるカリキュラムとなっています。

(菊池委員)

今のお話は、町会外というか、ボランティアとしての外部の人材についてだと思いますが、先ほど笹谷委員がお話しされていたように、町内で自分の能力を活かしたいと思っている方もいらっしゃると思いますが、それはハードルが高いというか。

たとえば、普段の生活で、私とかは函館で生まれ育ったわけではないので、近隣の方との

交流というのも、働いていたりするとあまりですが、そういう中でどう町会に関わっていけるかというか、関わっていきたいと思えるかどうかというところだと思うんですね。

そうすると、何か関わるきっかけみたいなものがあれば。

神田委員がお話されていたように、たとえばツイッターの見方だとかそういう小さなことからできる人達がいると思いますし、そういう風に関わりをもてるというか、項目でいえば2番の気軽に参加しやすい仕組みに関係すると思います。

その義務的にならない軽いお手伝いというか、どうしても、広報誌とかでこういうイベントやります、子ども会がありますと書かれていても、もちろん知り合いがいれば行きやすいのかもしれませんが、知り合いがいなかったり、転勤とかで来た場合には行きにくいと思います。

たとえばクリーン活動というのがあるとしても、目一杯、午前中やりますよと言われると行きにくかったりもします。

たとえば時間帯で分けるという方法もあると思うのですが、なにか義務感にならないというか、ああ今回まわってきたな・・・というような感じにならないようなお手伝い、たとえば隣同士の助け合いのようなちょっとしたお手伝いなどですね、何かアイデアはありますか。

先ほど孤独を好む若い人達が多いというお話もありましたように、なかなかそういうご時世ではないと思いますが。

私も、マンションの方に挨拶をしても、返ってくる方とそうでない方がいらっしゃいます。

その中で、お手伝いがありますよと呼びかけをしてもちょっと難しいと思う。

たとえば高齢者の方が草刈りをしている姿を見ると、重い物を持っていそうだから手伝いたいなと思っていても、やはり声かけにくいとかが結構あると思うのですが。

なにかその、いつでもどうぞみたいな広報もあると思いますが、こういう行事があるのでいつでもお手伝いをお願いします、とすると逆に来ないこともあるでしょうし、なかなか難しいですね。

きっかけづくりというのも色々あるかと思いますが、先ほど笹谷委員がお話しされていたように、達成感を感じるためにはなにか小さな、スモールステップのような、ほんの少しのお手伝いでいいと思いますが、何か事例とかアイデアとかありますか。

(平形委員)

急にお手伝いというのに結びつけるというよりは、今言っていたように、段階的なもの、全市的なものとして、たとえば市内ではクリーングリーン作戦をやっていると思いますが、朝の8時半からの30分間自分の家の周りをきれいにしましょう、という活動だとか。

まちをきれいにするというのが最終的な目的で、そのために皆さん頑張りましょうというのがわかると、みんな参加しやすいなという気持ちが生まれるというか、目的がしっかりしていると、皆さん参加する達成感も得られると思います。

段階的な、運動的なものを何回か、たとえば年に2回とか月に1回というスパンで行い、取り組みの中で集めた物は、町会でまとめて無料で廃棄できますとかにすると、じゃあ町会ってどこにあるんだろうとなり、そこで町会の存在をまず知ってもらえるというようなつく

りにする。

無理矢理ではなく、町会になんとか足が運ぶような取り組み、たとえば町会に行けば無料で廃棄してくれるから持っていこうとか、電池を捨てるのであれば町会に持っていけばいいなというように、一度町会を通すつくりを構築できると、まず町会の存在を知ってもらえて、そこに行くと広報誌が貼っていて、取り組みを知るという流れになると思います。

そのようないまづくりを構築していけば、なかなか全員は難しいとは思いますが、ちょっとずつ、1人ずつでも増やしていくことができるかもしれません。

(浜田委員)

これからの皆さんにとって、1番の関心事は何になるのかと考えなければならないと思います。

そう考えると、環境問題が出てくると思います。

政権も変わりそうだし、とにかく環境の時代に入ると。

最近感じているのは、クリーングリーン作戦だが、年々人が減ってきているということ。

この度、秋のクリーングリーン作戦をやりましたが、うちは200軒程度ありますが、出てくれた方は35人程度となり、年々減っている状況です。

ただ、あっと驚いたのは、いつも私が出している広報で、「日ノ浜の海がこんなに汚いよ、みんなでなんとかしよう」と呼びかけたら、百何十人が来たんです。

あまりにも人が集まってゴミも集まってしまって、市の方から驚かされたくらいです。

これはヒントになると思うが、やはりアピールして、呼びかけること、それから、今みたいに関心事は何なのかを考えること。

僕は環境問題だと思っていて、皆さんも海岸とかに一度さがって見た方がいいと思いますよ、ひどい状態です。

プラスチックゴミの問題もありますし、こういうのにポイントを絞り整備していけばいい。

(浜田委員)

たとえば、ゴミに関しても、今は、お金のかからない集荷は、うちの方では、1ヶ月に1回ですが、そういう所はどこかに集荷所をつくり、いつでも持って行けるようにするなど。

人と人とのつながりというのは、色々な形をやって、きっかけづくりが必要だと思います。

～Aグループによる協議内容のまとめを報告～

(平形委員)

それではAグループの取り組みについての結果をお話しさせていただきます。

まずこちらの「負担感の軽減」ということでお話にあがったことが、どの町会でも役員による後継者が年々いなくなっているということです。

役員のなり手がいないということは、役員になってもらうにはどうしたらいいか、というところを考えまして、やはり重要なのは外部人材の確保じゃないかということがAグループで話し合われました。



たとえば、社会福祉協議会では、くらしのサポーターというのが今事業として行われているので、そういうところの活用をしてみたらどうだろうかという意見や、先日の話し合いをした時にありました人材バンクの創設など、協力できる仕組みをつくる。

そして、そのためには、ボランティアに対しても見返りといっってはちょっと難しいのですが、なにか還元できることも考えなければいけないですねという意見もあがりました。

また、負担感の軽減としてやはり重要などころでは、気軽に参加しやすい仕組みをつくっていくことが重要ではないかという意見や、達成感を感じられるお手伝いが良いのではないかという意見、なかなか町会と関わっていききたいとは思っているがどのように関わっていけば良いのかというのが不明だというような意見があがりました。

さらに、義務感にならない手伝いの方法を色々考えた方が良いという意見などもあがりました。

旬なこと・関心事についてのお知らせをするという意見もありましたし、また、気軽に参加しやすい仕組みづくりとしては、町会へ足を運ぶ時に一緒に情報を得る仕組みをつくってはどうかという意見もありました。

また、財源についても非常に重要となってくるので、その中で出た話には、会費を選択制にするというものがあり、たとえば引落や、振込などコンビニで気軽に払えるような仕組みをつくる、あとはQRコードを使って、QR 決裁なども考えられないかということも話し合われました。

そして、町会の仕組みとしては、まず町会とのつながり方のきっかけをつくっていくこと、市・町会と2方向で取り組んでいくところも大事ではないかという話も出ましたし、世帯が少なくなっている町会もあるので、小さいところは合併等をしながら連携し、1つの町会としての取り組みをやっていかなければならないのではないかとということが話し合いで出ていました。

うまくまとめられたかどうかはわかりませんが、発表を終わります。

#### 【B グループ グループ分け協議】

纓坂委員，形部委員（書記），神田委員（発表者），竹内委員，  
常野委員（進行役），永澤委員

（常野委員）

それでは、項目ごと話をしていった方がいいのと、書記も項目ごとに書いていただいた方がいいとおもいますが、小項目が9つもあって、20分ぐらいで話さなければいけないので、上から順番ではなく、どなたかに項目を言っていただいて、意見を発してもらい、そこから始められればなと思っていました。

1番興味のあるところからでいいので、どなたかいらっしゃいませんか。

（竹内委員）

私は「外部人材の活用」に関して、ボランティアで大学生や高校生にお祭りやイベントな

どの補助を依頼してみるというものを考えていました。

あとは「その他」の町会の活動内容の見直しについて、配布物を少なくするという一方で、ポスティングや折り込みなどをアウトソーシングするというか、外部に委託するような形で、町会の人負担を減らすというような意見を考えてきました。

(常野委員)

竹内さんは人材のところからまずお話をしてくださったので、たとえば、町会ボランティアだったらどんなボランティアが必要か、どんな人材が必要か。義務的にならない軽いお手伝いの呼びかけに関しては、どんな手法があるのか。そういったところでご意見をいただくような形で進めたいと思います。どなたかお願いできますか。

(神田委員)

私も町会さんの外部人材の活用については、学生さんとコラボというかタイアップという形がすごくいいのかなと思っていて、竹内委員がおっしゃったのには賛成です。

そこで、やはり、本当に申し訳ないのですがPTAがなかなか行かないということから、そこをどうやって行かせるのが課題かなと思っています。

よく私も町会さんにお伺いして、今どういう状況かなどお話を聞かせていただくことがあります。

そういう時にやはり、担い手不足だというので、どうやったら保護者世代を少しでもお手伝いに駆り出すことができるのかというのが、課題であり、それを克服するにはどうしたら良いのかと考えていった方がいいのかな、と思っています。

課題の方ばかりですみません。

また、私たちも財源の確保は大変で、どこも一緒だというのがあると思います。

私の所属している町会さんは、本当に住宅街の中にあるので、企業さんがいないです。

その町会に所属していない企業さんをどうやって呼び込むことができるのか。

活動が魅力的だと企業さんもきっと乗っかってくると思いますが、その、企業とタイアップで地域が頑張っている、要は地域貢献という形で企業さんが乗れる形をつくるのにはどうしたら良いのかな、とPTAの学校活動の方でもいつも考えている課題の1つです。

(永澤委員)

人材の確保というのはすごく難しい。

さっきもお話ししましたが、教育大の学生さんにずっとお願いしてやっていた事業が、授業の単位の関係で時間的な拘束があり、できなくなってしまいました。

教育大自身も、一般企業の方が講師となっていることもあり、会社が終わってからの授業ということで、授業時間が7時から9時までとなり、学生の時間の確保も難しくなっています。

そうやって、なかなか人材の確保というのは大変なのだけれど、福祉センターの中にボランティア協会というのがあるので、そういうところに行って相談をするというのも1つの手

だと思えます。

各町会の求めているものがそれぞれあって、たとえば子どもに特化するとか、うちみたいに年寄りプラス若干子どもというところもあると思えます。

その特化したものにタイアップできるような団体は、社協の3階にあるボランティア協会に行くといっぱいあります。

ただし、無償ならいいのですが、有償だから大変な部分もありますが。

ボランティアは色々ありますが、健康的なものをやるためのボランティアがほしいとなった時に、今はまだ3年目ですが、うちではカーリンコンという軽スポーツの協会を立ち上げて活動しているので、北星小学校で1年間やっていました。

そうすると子ども達がとても喜んで行ってくれます。

北星小学校では水曜日に職員会議があるのですが、子ども達が家に早く帰ると親がいなかったりするので、その間の時間潰しみたいな感じで、軽スポーツという形でカーリンコンをやってもらい、その後、図書室や家庭科室に移動して教育大の学生さんをお願いして勉強をみてもらうという活動を1年間してきました。

勉強を教えてくれる学生さん達には、教育委員会かどこかが保険だとかそういうものを全部かけてくれました。

少し話は戻り、先ほど会を立ち上げる話を出しましたが、市民協働モデル事業という支援事業を函館市の企画部で行っていて、それは事業にかかるお金の半分を助成してくれるものになります。

その事業には、私たちが1番最初に応募しました。

会を立ち上げた時にお金がなくて、色々なことをしながらお金を捻出していた時に、市の支援があるとわかり、それに応募して、高齢者に限らず地域住民を広く対象とした居場所づくりの事業を3年間、次に、先ほどのカーリンコンという軽スポーツを取り入れた健康教室を行う事業を1年間実施し、合計4年間の助成支援を受けました。

そういう形で市の制度にはいっぱい使えるものがあり、もううちは応募しないが、毎年募集案内の書類が来ます。

申請する場合は、会を立ち上げるときに、今までやっていない活動を行うような形で書類をつくって応募するのがいいですよ。

(神田委員)

要は色々な手法を使ってということですよ。

(常野委員)

クラウドファンディングは財源のところでしたが、それ以外の手段もたくさんあるということですね。

櫻坂さんは、今の人材のところの特化してご意見ありますか。

(櫻坂委員)

先ほど大学生を活用されていらっしゃるとおっしゃっていて、可能であれば、高校生まで幅を広げてみてはどうかと。

私は仕事の関係でコロナになってから地域探求学習というカテゴリーの授業のお手伝いをさせていただくことが何回かありましたが、国際交流センターなので、国際交流をやりたいと言われます。

国際交流をやる時というのは、やはり自分の地域のことを知らないと、まずだめだと思います。

地域探求という地域を知る目的の枠ではありますが、先ほどの広報誌だとかを、もう少し若い年代である高校生や、中学校にそういうカリキュラムがあるかはわかりませんが、中学生などにつくっていただくと、おそらく保護者が食いつくと思います。

うちの子が広報誌をつくったとなると、みんな拡散してくれると思いますので、もう少し、学生といっても、大学生とかではなく、児童、小学校とかでも自由研究などでできるのであれば、若い力をどんどん使って、それを広めたい親御さんの力で拡散していくというのできるというのかなと思います。

(神田委員)

人材って、私なんかもそうですが極端で、高齢者の方が児童となってしまう、間が抜けてしまっている。

なので、高齢者だったり、私たちみたいな中年だったり、それから先ほど言われた高校生や大学生そして児童など、各世代がきちり入っていてほしいです。

間が抜けてしまっていて、じゃあどうしようとなるので、間の部分を今おっしゃったとおりに国際交流センターの皆さんの力を使ったり町会さんの力を使ったり、私たち学校の力を使ったりしながら、少しずつ枠を超えてつくれたら、もしかしたら行けそうですね。

(常野委員)

たぶん、人材の意見は皆さんからたくさん出るのですが、問題はそこのつなぎの部分ですよ。

そこをどこが担っていくのか、どういう仕組みにするかというところが、今後課題にはなってくるのでしょうか。

(永澤委員)

結構眠っている人材がたくさんいて、たとえば退職した方もいっぱいいます。

(神田委員)

そういう方をお願いに行くと、すごくやる気満々の方はすぐいいよと言って下さるのですが、今までずっと働いてきたからもう縛られたくないと断られてしまうことも多いです。

実は私たちも、学校が媒体で、CS ボランティアとあって、学校のために子ども達と一緒に育てませんかという内容のボランティア組織を立ち上げたんです。

それが自分達の地域の力にもなるし、やりがいとか第二のやりがいにもなりますよという形でやっているのですが、なかなかご理解していただけない。

参加回数は年に1回でも、もしかしたら0回かもしれないけど、ただ登録していただくだけで良いという風にしているけど、やはりボランティア組織に入るという事自体が縛られるという印象があるようなので、縛られるという印象ではなく、やりたいときに出来る、貢献、みたいなふわっとした温かい感じの組織づくりは結構大事なのかなと、自分でやっていて反省しているところです。

(永澤委員)

うちなんて正直、さっき話した立ち上げた会では、コロナの関係もあり、今は月2回のサロン活動をしていますけど、お年寄りから小さい子どもまで対象としているけど、お年寄りは来るけれど、なかなか子どもさんのいる方は来ないです。

色々活動をやっても、对学校となると、ひとつの壁がありますよね。  
案外学校というのは非協力的。

(神田委員)

今、市の3本柱にCSも入りましたが、これにも書いてあるが、ウィンウィンじゃないよねと言われていたところがあります。

なので、私たちだけの単体の話だが、やはり、どうしてもウィンウィンじゃないと続かないから、学校側も、地域の人のハードルが高かったところを今回のCSが始まったことで、うちの学校ではそのハードルをぐっと下ろしました。

要は、地域の人が参加して学校の方針を決めていこうという風にしています。

ただし、まだ途中の形なので、みんな一緒というのではなく、やはり、町会、学校、と別々の認識がずっととれていない状況です。

一緒なのに単体の意識が残りすぎている感じです。

たぶん、やってあげている感、やらされている感が抜けていないので、みんなで作っていくというのはどうやったらいいのかなと感じています。

(常野委員)

ちょうどこれは項目の4つ目「企業や団体等との連携」の話に広がっていると思うのですが、ここの、企業や福祉団体、学校や近隣町会と共同による活動の実施ですね。

皆さんなかなか悩みながら進めていると思うのですが。

(竹内委員)

私の町会は松陰町会なのですが、お祭りの日には、町内にある信用金庫さんの職員さんがボランティアみたいな形で焼き鳥や焼きそばを焼いたり生ビールとかそういったお祭りの補助的なのをやってらっしゃいました。

それは、町会側から、やってくれないかという形で依頼して、やってもらっています。

(神田委員)

関連団体との共同ということでは、うちでは、学校と包括支援センターさんと4町会さんと連携していますが、そうすると、やはり福祉団体と町会さんというのは連携しやすいというか、言いに行きやすい。

企業さんとなると、企業さんには企業さんのメリットというのが必要で、社会貢献という意味ではやってくださるが、うちは小規模なので、大きい規模じゃないとやはりできないのかなと。

それでもなんとかお願いして、やっていただいたものとかはあるのですが。

そういう風に、企業さんのハードルが私たちとしてはちょっと高くて、なかなか超えられずにいて、企業さんがいてくださったらすごく助かるし、もっと幅が広がるのかなといつも思っています。

なにせお金がなくていつも模索してやっている状況なので。

(永澤委員)

うちでは、お祭りをやるんですが、町会でやるのではなく、実行委員会を立ち上げてやっています。

主は町会でやるが、企業さんやいろんな福祉団体だとかそういうところと実行委員会をつくっています。

企業さんは自分たちは何を手伝えれば良いのだろうと聞くので、手伝うのに1番簡単な方法として寄付もありますよといいますと、それで済むのであればと、本当に快く寄付して下さります。

あとはやる行事の中のものに対して参加してもらったり。

(神田委員)

やはりそう考えると町会さんの力というのは大きいです。

私たち学校となると、そういうものに対してはハードルがやはり高くて、でも、関係している町会さんと私たちが連携しながら、町会さんから企業さんに対して実は学校でこういうことをやるからちょっと手伝ってくれないかと言ってくれたら、私たちはすごく楽になります。そうしてくれたら、企業さんも、町会さんが言うなら協力しようかみたいになるかもしれないなくて、そうなるとすごく嬉しいです。

(常野委員)

企業としたら、社会貢献だけではなく、売り上げや集客というところがあればウィンウィンにつながると思いますね。

(神田委員)

若い人へのPRにもなると思います。

(永澤委員)

寄付をもらったら半返しみたいな形で、たとえば、寄付してくれた企業さんのものを、寄付してくれた額の半分を使って商品を購入するとか、商品そのものを寄付として出してもらっているケースもあります。

そしてお祭りの中で抽選会があるので、これは「〇〇企業さんのものです」と宣伝する。

(神田委員)

そういうことで力があるのはやはり町会さんだったりしますよね。

(永澤委員)

町会単体というよりも実行委員会を立ち上げてやった方が、融通が利くので、動きやすい。

町会だけでやると、そのお金は町会のどこから出しているのという縛りが出てくるから、そういうのが動きづらいので、実行委員会形式にしてやると町会のお金は使っていませんよという形でできるので良いです。

(神田委員)

町会さんがいて、交流センターさんがいて、包括支援センターさんがいて、こうやって1つのテーブルに全部が集まって1つやれたら話が早いですね。町会の現場でも、テーブルを囲む場面があれば、話が広がるし、まとまりやすいと思います。

(常野委員)

企業としてのメリットというのは何がありますかね。

本音と建て前ではないですが、協力したり協賛したりするところ以外で、町会と関わる企業のメリットというのは何なのでしょう。

(竹内委員)

私自身は信金さんとは関係ありませんが、信金の方とお話ししたことがあり、その時にどうして町会と活動をやっているのですかと聞いてみました。

その時は、信金は銀行というより、どちらかという地域振興のような扱いなので、地域の人に寄り添いたいというような趣旨があるから、こういうのは休みの日だけど、協力はするとおっしゃっていました。

その代わりに、区域に商店街とかがあり、商店街の方達も取引先でお世話になっているので、そういうのでお返ししたいという気持ちが強い、というようなことはおっしゃっていましたね。

また、企業ではなく、学校の件になりますが、何年か前に大雪が降った時、函工の野球部の生徒たちが地域のお年寄りの雪かきをやってくれていた記事を見たことがあります。

逆に、そういった高校生の運動部のような方達に雪かき等の協力をしてもらえれば、地域

のお年寄りの見守り活動につながるのかなと思います、活動という意味では協力してもらえればなと思います。

(形部委員)

部活動の生徒が部活の始まる前に来て地域の雪かきをしているということを実際にやっているところがありますよね。

(竹内委員)

町会としてのタイアップではないと思いますね。

(形部委員)

町会のタイアップとしては、クリーングリーン作戦がありますよね。

各町会に行って、町会の手伝いを学生がしているというのは実際にあります。

それはすごく助かっているみたいですね。

(神田委員)

たしかにクリーングリーン作戦の時に、昨年度は、うちも学校をあげて関係町会さんのところのお掃除に行きました。

しかしうちは小学生なので、保護者も一緒に出したいというのもあったので、終わった後に学校に戻りレクをして、パプリカを踊ってYouTubeにアップしました。

それをやったのは、町会さんからお掃除に来る人がいなくてどうしようという話を聞いたので、じゃあ何か一緒にコラボでやりましょうという話になったからです。

そういう形で貢献はできるんです。

当時の6年生が、授業で町会さんと呼んで町会調べというのをやったら、雪かきが大変だと皆さんおっしゃった。

それで、6年生がみんなで雪かきに行った。そういう風にコツコツと。

うちは学校が小さいので規模も小さく、全体をかきにはいけないのですが、一緒にやっている感があるのかなと。

(常野委員)

今のお話を聞くと、企業や団体との連携の他に、気軽に参加しやすいというところも、たぶん連動していくと思いますね。

(竹内委員)

今年、21世紀枠で春の甲子園に出ることになっていた帯広農業などもそうですが、雪かきなどの地域活動とかも採用基準になっているようです。

高校生とかもそういった奉仕活動が、なにかの評価や内申点的なものにつながるとういのかなと。



(常野委員)

色々意見が出ましたが、「その他」の所がまだ残ってしまっていますが、町会活動内容の見直し、公平負担や集金方法に対するご意見はありませんか。

(竹内委員)

人材不足でどの町会も困っていらっしゃると思うが、思いきって、活動を各町会合同で行ってみてもいいと思いますし、活動自体を縮小しても良いのかなと思っています。

(常野委員)

縮小というのであっているのかはわからないが、町会じゃなくてもいい活動まで町会がしていることで負担になっているという資料もありましたよね。

(竹内委員)

町会が、使命感に駆られてしまっていて、負担が膨らんでしまっていることもあるかと思いますが、切るところは切っちゃってもいいのかなと。

(永澤委員)

活動の見直しと漠然的に言われても、その町会ごとの活動の大きさがあるので、何を見直すれば良いのかな、と私は逆に思います。

そして、たとえば、今言われたように合同にしてしまうと、現実的にちょっと難しいかなと思います。

というのは、何かをする時には、無償であるものなのか有償であるものなのかという選択肢が出てきて、ここを有償とした時には、負担割りはどうするのかなど、細かい内容が出てきます。

たとえば、うちの町会でずっとやっている活動を、隣の町会ではまったくやっていない時に、一緒に活動するとすれば、やっていない町会に対してこちらから手助けをする負担というのが莫大です。

町会活性化をやるのについても、市内全部の町会を活性化するためにしているのか、難しく大きい課題なのにこんな短いもので、まとめようとしているのか、といつも疑問に思っています。

(常野委員)

これはあくまでも検討の会議なので、これから実行していくところが大事になってきますよね。

(形部委員)

細かい活動で申し訳ないのですが、募金とかの集金など、1人1人まわらなければならな

いという活動を、うちでは全部やめました。

募金は町会費からもらっているのと結局同じだろうということで、町会費から何万というように募金にあてて、1軒ずつもらうのをやめています。

町会費にプラスで500円もらうとかではなく、町会費の中から賄う。

そうすると、1軒1軒まわらなくていいから班長さんの仕事が減ります。

(永澤委員)

集金を班長さんがしない町会はどれぐらいあるんでしょうか。

うちは集金人にお給料を払ってやってもらっているんで、班長はしないです。

班長が嫌だから町会加入をやめるという人が多いですが、うちは集金人さんを雇っています。

そんなに何十万も払うわけではないから。

1ヶ月のうちの前半5日後半5日でトータル10日ぐらいかけて集金にまわってもらっているんで、できるだけ1年分払って下さいという形をお願いしている。

(常野委員)

話は尽きないと思いますが、そろそろ時間が近づいているので、総括に入りましょうか。

(形部委員)

新たな手法ではないですが、良い集金方法はありましたね。

(神田委員)

業務委託のような形ですね。

それに、まず、募金を町会費から出すというのは新しいですね、びっくりしました。

(永澤委員)

うちは、お祭りの時に寄付を集めた中から募金のものは全部出しているんで、改めて募金活動はいっさいしていません。

一口500円で、500円払うと抽選会の抽選券が当たるという風になっています。

(神田委員)

うちはお祭りがなくて募金活動だけです。

集金に来る時に募金も一緒に、だいたい500円なんですけど…という形で集金します。

(永澤委員)

各町会で活動の方法は全然違うので一元化はできないですね。

(常野委員)

竹内さんがおっしゃったように、全体でやることと、永澤さんがおっしゃるように町会単位がそれぞれ行うところは分けて取り組んだ方が効果的ですよね。

(常野委員)

櫻坂委員，交流センターって，活かせる人材みたいな方が，すごいそうな気がするのですが。

(櫻坂委員)

そうですね，今は事業が多岐にわたっていて，国際交流から生活困窮とかもやっているの  
で。

(永澤委員)

あまりにも市内で，たとえば生活困窮って包括さんでもやりますよね。

そういう特化したものを，ばらばらとやっているのが函館市内では多いですね。

何かに困ったという相談活動でも，これは民生委員に行きなさい，これは町会に行きなさい，ということができないので，そういうのを含めてうちは会を立ち上げました。

その中には民生委員もいるし，ある団体の職員の方もいて，一番最初に相談をやったのは，仏事の悩み相談会。お墓じまい，それが一番最初の相談業務で，すごい人が来ました。

それだけ困っている人が多いということ。

でもそういうのって，そういう専門的などころにはいかないですね。

それが私たち地域の活動の所に相談には来る。

そういう会とお寺さんたちだけでつくっている会があったので，そこに打診をしたら，快く引き受けてくれました。

(常野委員)

それも人材とか企業のつなぎですね。

～Bグループによる協議内容のまとめを報告～

(神田委員)

私たちBグループでは，まず，人材の確保のことを考え始めました。

どうやったら人材確保できるんでしょうかという話から，学生さんを使いましょうという話で始まりまして，大学生さんという話が多かったのですが，いやいや，高校生や中学生，小学生，全ての学生さんが対象ですねということになりました。

大学生になると高度なことをお願いできますが，小学生や中学生あたりでは，地域の雪かきなど，本当に小さな活動をする事だったり，あとは，広報紙を作るなど，子供たちがつくった広報誌が配られるとなったら，親御さんは食いついてその広報誌を見るのではないか。

そしてその広報誌を見ることにより，地域ではこういう活動をしているんだということ，子どもを通して見ていくのではないかというお話が出ました。

そしてそういうことは、子ども達が地域貢献をしていくということで、自ずと小さい頃から地域の大切さだったり、大人になった時に自分たちで自分たちのまちを担っていくんだという意識付けになるのではないかというお話も出ました。

外部人材という点では、企業さんというのも重要だという話になりました。

しかし、私はPTAなのですが、学校として企業さんに頼むというのはとてもハードルが高いですが、町会さんを通してなら、企業さんに頼みやすいという意見もありました。

企業さんについてお話に出てきたのが、たとえば信金さんなど地域に根ざした企業さんというのは、やはり地域の人に助けてもらっているから、その分地域に貢献しようというって、お祭りなど色々な形で貢献してくださるそうですが、全ての企業さんがそうではないので、そうなった時に、企業さんを呼び込むためにはどうしたら良いのだろうかという話が出ました。

なかなか答えが出なかったのですが、やはり皆さん共通していることは、魅力がなければ企業さんは貢献してくれない、やはりここがウィンウィンでなければだめだね、ということでした。

そうすると、町会が持っている人材というか対象者は、私たちの年代のような保護者だったり、それから高齢者の方ですので、企業がそういう方に認知してもらうことは、企業さんにとっては宣伝になるということを押し出していきながら、企業さんを見つけられたらいいんじゃないかという話になりました。

また、人材バンクの話の中では、退職した方は皆さん、私はもういいと言いますが、そういう方をどんどん引き入れるにはどうしたら良いかという話もありました。

あとは新しいことですが、配布物などのポスティングの際にお金をお支払いして配布物を配布していただき負担軽減につなげるという人材の使い方をしているところもありました。

また、ちょっと話は戻るのですが、学生さんの話だと、小中学生は大丈夫だが、大学生とかになると、最初は手伝ってもらっていても、学校の問題でなかなか時間がなくて、もう無理だと途中でやめられてしまうこともあるそうで、その部分をどうしたらいいのか悩みのところだね、という話もありました。

地域に根ざしたというところで、学生を使って雪かきをしたり、クリーングリーン作戦の手伝いをしてもらったり、地域と密になっていったらどうなのかという話も出ました。

課題としては、今言った方々が、もともとあるところの団体に参加する率も減ってきているのに、更にお願ひしますと言いに行かなければならないという負の連鎖のようになかなかうまくいかないというところもありますが、コツコツやっつけていかなければダメだねという話はしていました。

また、財源の確保については、町会さんと企業さんをどう結んでいくのか。

市と協働モデルで事業をして、市の方から補助をいただいて事業をつくってはどうかという話や、社協さんとかのボランティア協会にお願いをして、財源が無い部分をボランティアの人材で補ってはどうかという話も出ました。

また、クラウドファンディングなどの新しい手法では、寄付などいろいろな方法があるそうですが、それをどう活用していったらいいのか。

ただ、どちらにせよ魅力がなければだめだねというところに落ち着きました。

あとは、町会費の集金方法についても、先ほど言っていたポスティングと一緒にお金を払ってその方にやっていただくところがあると伺っています。

募金を集金に行くのも大変だという話がありましたが、その中では、町会費からそのまま一括で出費している町会があると伺ったので、各町会でお金の面では色々考えられているんだなというのがありました。

また、項目のその他に町会活動の見直しとありますが、各町会の大きさによって活動の差があるので、何を見直せばいいのかというのが素直な気持ちだとのお話もありました。

各町会の大きさが違い、大きさによって活動の差もあるので、やはり全体的ではなく、その町会さんごとに、個々で見直さなければならないですねというのもありました。

なかなか答えまではいかなかったのですが、その前の段階の考える部分というのが、今回私たちの方のテーブルでは多かったです。

以上です。

(事務局 小林主査)

ありがとうございました。

それでは、お荷物と座席札をお持ちになり、もとの中央の席にお戻りください。

(菊池座長)

皆様よろしいでしょうか。

今、2つのグループから協議内容を報告していただきましたので、それにつきましてお互いに意見交換をしていただきたいと思います。

皆様の方から何かご意見ございますでしょうか。

結構共通でお話があった人材に関して、Aグループはどちらかというところから人材を集めて人材バンク的なものという話でしたし、Bグループはそれをさらに色々な世代、特に学生さんに焦点を当てていたと思います。

また、地域活動をすることで、保護者の興味・関心も町会に行くのではないかという話もあったと思います。

それ以外でも財源の確保や、活動の見直し、実際どういうものがあるのかなというのほちょっとなかなか難しいという話もありました。

それらについて、色々ご意見が各グループであがって、重なっているところもあれば、オリジナリティがあるものもあったと思いますが、何か質問・ご意見等ございますか。

(常野委員)

たぶんとても活発な意見交換になって、時間が足りないくらいだったと思いますが、感想を含めて。

参加しやすい仕組みだとか、人材へのつなぎ、ここがやはりテーマになってきていて、その実際に実行・実施していく時に私が思うのはやはり主語で、誰が担っていくのかということ

ころになります。

また、先ほどお話ありましたが、モデルのようなもの、まず1つ成功体験、成功事例をつくって、それを広げていくというような具体的な取り組みが必要なのかなと思っていました。

(菊池座長)

ありがとうございます。

モデルケースというか、ひとつのルールモデルのようなものがあれば、町会や一般の市民の方も参加しやすいところがあるのかもしれないですね。

他にも何か、感想でもいいのでご意見等ありますか。

(神田委員)

私たちのテーブルでは、色々な業界の方が一緒のテーブルにいて、最終的に思った感想は、こういうように色々な業種の方が同じテーブルにいてやれば話が早いなど。

どうしても、1つの町会、私たちであれば1つの学校の単体で考えていても、なかなか話が進みません。

色々な方のご意見だったりお力がやはり大事だなとわかりました。

ある1つの場所、色々な方がテーブルにいて、何か1つの物事ができるような場所やテーブルみたいなものがあれば、話が早く進みそうだなと実感しました。

(菊池座長)

ありがとうございます。

たしかに、こうやって色々な方とお話しできる機会というのはなかなかないですが、町会では、やはり色々な方が住まわれていたり、活動されていたり、企業がお仕事をされているので、そこで何かそういう話し合いのテーブルがもたれると、非常にスムーズに進むとは思われます。

他に何かご意見等ございますでしょうか。

(櫻坂委員)

今、両グループの意見を聞きまして、外部人材の活用というところ、おそらくここにインターネットという選択肢が入ってくるのかなと感じました。

これからは人材もそうですが、インターネットというものをどう活用していくか。

これまでの協議の中では、紙かインターネットかというその2択で、媒体としてのインターネットだったかと思います。

町会の1番のメリットというのはローカルなつながりだと思いましたが、インターネットというのは不特定多数の世界とつながれてしまいます。

そこに飛びつく危険性とメリットを吟味して、そのインターネットのメリットの部分を活かしていければいいんじゃないかと感じました。

(菊池座長)

ありがとうございました。

他にご意見等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

私の方で、負担感の軽減について両グループの発表を通じて感じたことがあったのですが、やはり色々なアイデアや考えるべき項目を出していただいて、非常に参考になりましたが、1番大事なところは、やはり町会自体の魅力がないと難しいというところです。

その魅力があがらないと、やはり参加したい、関わっていききたい、ボランティアとして手伝っていききたいなというところが続かない。

もしくは自分でやってみたい、関わってみたいという門を開けるきっかけが難しい。

もちろんきっかけというのは、今までも自発的な参加の意識づくりの話し合いであったり、魅力ある町会づくりについてお話があったとおり、全ての取り組みの方向性はつながっていますよね。

どれか1つ頑張ればいいというわけではないのではないか。

町会自体を活性化していかなければならないし、自発的な参加をどうやればいいのかというアイデアもたくさん出ました。

今回も、透明性の確保であったり負担感の軽減で、やはり参加してみたい、関わってみたい、人材として自分の能力を活かしたい、こういう所だったら活かしていききたいと感じられるような町会のつくり方というのは、皆さんが先ほどおっしゃっていたように、後継者不足、人材不足というのがあり、なかなか難しいというのはあると思いますが、そういうところではない、たとえば頼れるところは頼るというか。

皆さんからもお話があったように、自分が何をできるかはわからないが、できることを登録できるようにする、そのハードルを下げる、簡単・簡易化を図る。

今はインターネットでもありますし、紙媒体でもそんなに難しい項目をつくらない。

たとえば先ほどBグループにもありましたように学生の活用ですね、たとえばうちの子どもは小学生ですが、4年生からクラブ活動が始まったりしているので、保険の関係もあるのですが、学校内だけではなく、クラブ活動や授業の一環で地域に行けるようにするなど。

今日もうちの子はクリーングリーン作戦で町会の方と参加しているのですが、そういうことがもう少しですね、たとえば若者の人材バンクというか。

地域に貢献できる自分だという成功体験が自己肯定感につながるといいますし、そういうことがクラブ活動や部活動を通じて、自主的にも関わって行ければなと思います。

また、先ほど広報誌を自分たちでつくれば保護者が見るといご意見もありましたが、私は確実に見るといいます。

何かをつくると誰かが関わってくるということですね。

Aグループでもありましたが、たとえば、資源回収や乾電池を廃棄する時に町会に行ったらできるということがわかれば、そこに広報誌が貼ってあったりQRコードが貼ってあったりするとついでに情報収集ができる。

このように、1つのアイデアが数珠繋がりにつながっていくのではないのでしょうか。

皆さんもお話しされていたかと思いますが、何か1つでもいいから各町会における成功事例もしくはルールモデルというものがあると想像がしやすいということです。

色々な規模の町会さんがあるので全部同じようにというのは難しいと思いますが、自分たちがどういう風にしていけば良いのかというイメージは大事だと思います。

そういう成功事例、成功体験を積み重ねていくことが、すごく大事なんじゃないかとも。

議論がまとまったという感じはあまりしないのですが、考えなければいけないこともあり、両グループからこれからの課題となるというお話もありました。

議論がまとまったとは、言いがたいのですが、それだけ町会の活性化は、難しい問題でもあり、特効薬もないものなので、少しずつ、小さいことから積み重ねて、行くしかないのではないかと思いますし、このように共通の課題もしくは方向性があがったという事でも、非常に良かったですし、成果だと思います。

以上のようにになりましたが、事務局としてはよろしいでしょうか。

(米田市民・男女共同参画課長)

数多くの貴重なご意見ありがとうございました。

その中で1点、浜田委員から市のホームページを活用してという趣旨のお話がありましたので、これについて少しだけお話しさせていただきます。

市の町会担当のホームページには、町会の活動を紹介しながら町会の加入促進につなげるための記事を掲載しております。その他にも、町会に加入していない方がご自身の地域の町会を検索できる機能を掲載するなどの取り組みを行っております。

ご意見にございました単町会のホームページを個別に掲載するというのは数的にもなかなか難しいかもしれませんが、町会連合会さんと相談をしながら研究してみたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

その他、皆さんからいただいたご意見を事務局で整理しまして、素案づくりの参考とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

..... 3 その他 .....

(事務局 小林主査)

それでは、座長には引き続き進行をお願いいたします。

(菊池座長)

それでは、「次第の4 その他」について、委員の皆様から何かありますでしょうか。なければ事務局からお願いいたします。

(事務局 米田市民・男女共同参画課長)



それでは、事務局から連絡事項をお伝えいたします。

1点目ですが、以前お伝えした函館市町会活性化セミナーの開催についてのお知らせです。セミナーの概要を記載した資料をご覧ください。

このセミナーの目的は、幅広い世代の市民が町会への理解を深め、市民がともに町会のことを考える機会となるよう開催するものです。

開催日時は、11月29日（日）13時30分から15時30分までの2時間を予定しております。

場所は、函館市民会館で開催いたします。

募集については、一般公募で100名の定員となっておりますが、各関係団体にも、別途ご案内する予定です。検討会議の委員の皆様には、案内用のリーフレットが完成しましたら郵送させていただきますので、ぜひご参加下さいますよう、よろしくお願いいたします。

2点目ですが、次回の検討会議を1月下旬に開催したいと考えております。後日、あらためて皆様と日程調整をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

次回会議の議題といたしましては、これまでの検討会議の意見などを参考にさせていただきます、作成した「素案」を、皆様に提示したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

(菊池座長)

ただいまの連絡事項に対し、何かご質問等がありますでしょうか。

何もないようでしたら、以上で終了とし、事務局に進行をお返しします。

..... 4 閉 会 .....

(事務局 小林主査)

それでは、これをもちまして、第5回函館市町会活性化検討会議を終了とさせていただきます。

本日はお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございました。